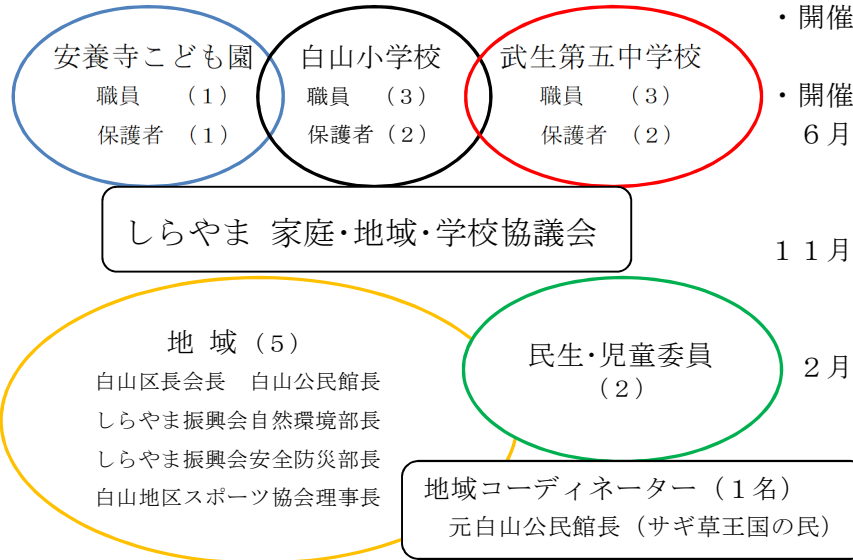


令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

越前市武生第五中学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容 (小中合同)

- ・開催回数…3回
 - ・開催時期と協議内容
- 6月20日
協議会の趣旨説明
活動方針および活動計画
- 11月14日
前期の活動報告
教育活動の評価
- 2月15日
後期の活動報告
学校評価の分析
次年度への課題

(3) 協議会における成果と課題

小中合同で開催される協議会は、通学路の安全や児童生徒数の減少など、地域全体で考えていくべき課題について共通認識できる場となった。また、学校の多忙化解消に向けての行事の見直しなどについても説明できた。

今後は、地域活性化を目指す学校での体験活動などについても、協議会委員からのアドバイスや協力をもとに見直しを図っていく。



2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の専門家や各種団体の力を借りて行う農業体験や環境調査などを通して、生徒が自分たちの住んでいる地域の魅力や課題について再認識する機会をつくり、地域の活性化に役立つ活動を企画・提案、実践できる生徒を育てる。

(2) 活動の実際

① 「スイカ栽培」 (全校生徒)



全校生徒の縦割り班で収穫目標や管理計画を立て、地域の特産であるスイカの栽培に取り組んだ。残念ながら、降雨後の消毒や雑草の管理が計画通りに進まず、ほとんど収穫できなかった。天候に左右される栽培の難しさだけでなく、毎日手を入れて管理することの重要性を痛感する結果となった。



②「環境調査」（全校生徒）

調査テーマ「全ての生き物が共存できる白山地区にしよう！」のもと、慣行田、冬水田んぼ、黒川、天王川、退避溝、カエルの6つの調査班に分かれて生き物調査を行った。調査結果は、3年生が中心となって縦割り班で分析し、地域の古民家を再生したふるさと茶屋「白山さんち」で発表した。地域外からの来店者もあり、白山地区の環境を知ってもらう良い機会になった。

この調査の結果を受けて、環境を守るために自分たちにできることを提言にまとめ、節電・ごみの分別・エコバッグ活用など、学校や家庭での実践に結び付けた。



（3）地域コーディネーターの活動概要

地域コーディネーターは、年度途中から都合により活動していただけなくなった。関係団体との調整や生徒へのアドバイス等が必要な時には、家庭・地域・学校協議会の委員やふるさと茶屋「白山さんち」の方に協力していただいた。

（4）特に工夫した事項

今年度は、生徒から募集したデザインをもとに、五中スイカのものぼり旗を2種類作成した。スイカ販売はできなかったが、地区の夏祭りや環境調査発表での試食の際に会場に掲げ、本校の活動を広くPRできた。

また、来年度のスイカ畑の広さや畝の向きについて、除草や水やりなどの手入れがしやすいデザインに変えることとした。デザインは地域の専門家のアドバイスを受け、SKI（しらやま活性化委員会）の話し合いにより決定した。



（5）成果と課題

地域の特性を生かした体験活動は、これまで継続して取り組んでいるため、生徒の主体的な活動につながっている。縦割り班での取組は、上級生が下級生に教えたり次年度を意識して活動したりする態度も引き出している。しかし、地域の課題を自分の課題としてとらえることは、地域の方のアドバイスを受けてもなかなか難しい。より身近な課題としてとらえさせる仕掛けが必要である。

また、天候に左右される作業は、授業時数を確保しながら計画的に実施することが難しくなっている。作業の精選と地域の方へのさらなる協力依頼が必要である。